



SSH News Scope vol. 4 ～ニュースから探究を始めよう～

今年度から不定期で、SSH 委員が気になるニュースを新聞やネット記事などから見つけて皆さまにお伝えします。身近な「なぜ」から探究は始まります。日々のニュースには科学や社会について考えるきっかけがたくさんあります。皆さんもニュースをきっかけに「なぜ」を見つけて一緒に考えてみませんか。

vol. 4 は2年1組 横山 紗奈さんからお届けします！

論文の著者は人か、ChatGPT か？

AI が生成したコンテンツをわずかに加工して、判別しやすくすることを義務付けようという意見もあります。画像の場合には、人が気づかない程度に、ピクセルの色や明るさを変えることで、いわば“すかし”を埋め込む技術が存在しています。テキストについてもすかしを入れる方法が考えられています。しかし一方で、こうした対策技術は役に立たないという意見もあります。アメリカ、メリーランド大学の研究チームは、たとえば文章中の単語を置きかえてすかしを埋め込む技術は、AI が生成した文章の「AIらしさ」を消し去る目的にも使えてしまうといいます。また、誰かを中傷する文章にわざとすかしを埋めこんで、そのすかしの開発者がAIで中傷文をつくったかのようになりすますこともできてしまうと指摘しています。AI が生成したコンテンツをどう見分けるかという問題は、今後しばらくは大きな課題になるかもしれません。

Newton 2023 10月号 34、35 ページより抜粋



最近の先生はよく言う。「AI でつくった文章はバレるからな」と。根拠も知らないまま、私はその言葉を信じていた。記事を読んで、その理由が分かった。判別 AI が、AI と人間の文の傾向の違いをもとに見分けていたのだ。さらに、区別を確実にものにするために、AI が生成する文自体に工夫を施そうという意見があった。私はこの記事で二度、驚いた。一つが、このすかしという技術だ。過度な AI 使用の抑制になる、なるほど理にかなった対策だと感じた。二つ目は、それが悪用される危険性があることだ。人間が、AI のせいにして中傷的な文を作成できてしまう。なかなかずる賢い考えだと感じたとともに、それを予測できる研究者の多面的・多角的に考える思考の幅広さに私は感銘した。私もこの客観的な見方を身につけたい。一つの対策を講じる際、反論や悪用の可能性を想定し、本当に合理的な解決策かどうか判断できる人間に私もなりたと思った。

2年1組 横山 紗奈

【プロフィール】

横山 紗奈さん

Principia では1年次から慶應大学(SFC)に所属し、昨年度末に行われたポスターセッションでは「みかんを制する者は暮らしを制す」でいいね大賞を受賞。今年度は昨年度の研究を発展させ、「カカオの消臭効果」について研究中。SSH 委員長、図書委員を兼任しており、生徒会、バスケット部、文芸同好会、軽音楽部と多方面で活躍中！

※「みかんを制する者は暮らしを制す」のポスターは AB 棟間2階渡り廊下(西)に掲示しています。ぜひご覧ください。

